

哀き果かず卒去らずふ雑の憂ことありぞとす。初々て尾縷の漬器  
 斎み。今更や追ひば人もぐす。聖天や便宜もなきと。咱の脅よひね  
 ども、然患を汾らひ幼女を。恙一むる五月詔て待申斐もうき都乃  
 と。うれ。あまく怖らく漢情の。妻らをあふりのあんを。耶中れ這まれ  
 付役。おの安否訪あと。二歳の安子を昇抱き脚章と登りそ  
 見まば。噫あづきうに彼卿へ逝去させと。今天もや初忌日墓  
 所よハ桃李紅白と雜て放と捨。見る冷者の艱さ難さ。あすうふ  
 囊も度しき。咽唾と血を吐き。偶歸洛の期を従ゆて。娘と  
 恩ふ詮も。早世一死ふうこそよ何よ辭矣。母子が身のうへ疊  
 の燈秋の扇。それと便いあるりの残別。不便は這娘が果報つゝ危  
 縛ふと樓抱づきぬ悲嘆ふ伏流む。理せりて哀きうり朝と果べ  
 夢あらねば。逝く所ふ帰りぬれども。女の胸の丈うて。悲哀移う病  
 とう。程え疾生を薰衆の街の鬼と。うり果と。父の次を支洞と共に至  
 捨ふと是を葬り。孫の養と藍ふも乳して。一あ年を過せ。世の理の生  
 者必滅。老病命を僕り来て。次を失ふ亦耳順の秋荼毘の烟ふ終を取る  
 幼稚の女子が憑きよされ。叔父五郎助が憐み。名をが於仲と称る  
 し。咱房ふ身を安つる。媒妁結する人あつて。於仲女十八歳の夏  
 に。木下弥助が妻とて。是享禄四年四月のことうをとぞ  
 日吉九誕生於仲觀奇瑞附神童生長  
 隅陽和。あふして娘ふ雨澤降り。夫婦和とてあふとて居る家  
 道成ると木下弥助昌吉。於仲の方を娶てより好合こと。夢膠の如く  
 比目鴛鴦もかふとぞ。其餘のちうち見え姫娘形の如くふとぞ。